広報おうら
ORA TOWN Public Relations
平成27年2月号 No.581
毎月1日発行

〈第四十五回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けします—。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

全国に約900ある愛宕神社。京都が総本山で「愛宕の三つ参り」として3歳までに参詣すると一生火災にあわないとして信仰されています

信街道の愛宕様

愛宕神社の総本社は京都にあって、防火の神として全国から信仰されています。ここ狸塚店、信街道の集落の外れにも、愛宕様が祭祀されています。狸塚の本村の住宅密集地から見ると北西の方角に当ります。

ある話によりますと、昔、この辺りに大火事があったそうです。今でこそ、開かれて住宅や耕作地になっていますが、そのころの狸塚は、一旦火がつけば集落にすぐ燃え移るような環境だったでしょうから、大火もやむを得なかったと思います。

昔のことですから、近代的な防火施設や設備を考える余地はなかったでしょう。ただ神様におすがりして、二度と火災にならないように祈るだけでした。そこで狸塚中の人が相談し、火伏せの神様である愛宕様をお祭りしようということになったそうです。それが今の愛宕様です。

祭神は火産霊神（ほむすびのかみ）です。明治の終わりから大正の始めにかけて愛宕様には杉の大木があって、子どもがこの杉の木に登ると鞍掛山の向こうに利根川が見えたといわれます。愛宕様のすぐ東には蓮座に横山と刻んだ天和3年（1683）建立の見事な大日様の立像があります。石仏の身は堅く口を閉じて謎を秘めています。

明治42年に一度、村社長良神社に合祠されましたが、店耕地の人たちは今も小宮を祭り、愛宕様をお祭りしています。3月24日が愛宕様の縁日です。

流された弁天様

昔、大雨が降ると前原辺りは大水が出て大災害を受けました。上からの勢いよい濁流、下からは多々良沼や中野沼が氾濫して逆流してきました。

村人たちは、これは水神様のたたりだろう、ということで人柱をたてて洪水を防いだそうです。そして、そこに弁天様をお祭りしました。

それでも、ある年の大雨で、せっかくお祭りした弁天様が流されてしまいました。流れ着いたところは、カツモ（デンジソウ）やアシの枯れ葉が積み重なってできた水に浮いている小島でした。人々は浮き島と呼びました。鶉新田にある弁天様はもともとは前原の弁天様が流れ着いたのだ、ともいわれます。

多々良沼の浮島弁財天（鶉新田）

【発行】邑楽町老人クラブ連合会　【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り（第六集）あすへひとこと」より

編集・発行　邑楽町役場企画課
〒370-0692（住所記入不要）
☎0276-88-5511（代表）
☎0276-47-5007（企画課直通）
FAX 0276-89-0136
URL http://www.town.ora.gunma.jp
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL　http://www.town.ora.gunma.jp/k

まちの風景

初日の出
（多々良沼公園）

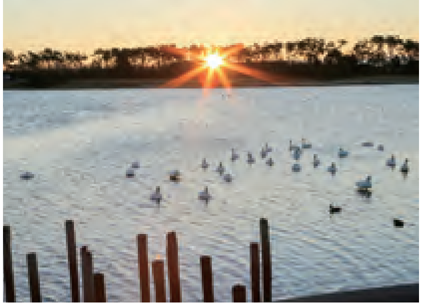

Photo 髙根澤高明（記録ボランティア）

ひとりごと　From editors

▶仕事で成人式に行きました。晴れ着に身を包んだ新成人の姿は初々しく、また夢を語る姿は頼もしくもありました。いつ見てもすがすがしい気分になります。▶会場には新成人の親御さんの姿も見られました。よくよく見るとわが同級生の姿も。みな口々に「あっという間だったよ」と話していました。小さな赤ちゃんだったわが子が立派な大人に。ご家族の皆さんもさぞ感激されたことでしょう。ちなみに私の娘はまだ小学生。あと9年後にはこうなるのかな･･･。▶社会は激動しています。明るい話題ばかりではなく、重い課題も数多くあります。その中に今、力強く歩み出した新成人たち。いつの時代も未来は若者たちのものです。頑張れ新成人！負けるな新成人！（田中）

VEGETABLE OIL INK
この広報誌は、自然保護のため植物油インキを使用しています。

がんばろう日本!! おうら町から支援の和 ORA for JAPAN
この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱製紙のニューＶマット紙を使用しています。